

科目名		呼吸病態学特論	
科目責任者	和泉 弘人	(呼吸病態学 准教授)	
担当者	和泉 弘人	(呼吸病態学 准教授)	
開講時期:	1年次後期	単位数:	4 単位
		時間数:	90分× 30 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>職業に起因する様々な呼吸器疾患の特徴やその現状、病態解明するための分子生物学的アプローチを学び、職業性肺疾患の病態の理解を深める。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 職業性肺疾患の特徴を概説できる。 2) 分子生物学的アプローチの手法を説明できる。 3) 分子生物学的アプローチの手法の意義を説明できる。 4) 職業性肺疾患の生理学的基本理論を説明できる。 5) 職業性肺疾患の病態生理を説明できる。 6) 職業性肺疾患の特徴を系統的に説明できる。 7) 国内外の職業性肺疾患の特徴を系統的に説明できる。 8) 職業性肺疾患の現状を説明できる。 9) 職業性肺疾患における分子生物学的アプローチの意義を説明できる。 			
● 評価方法	検討会での発表(40%)、レポート(40%)、討論(20%)等で総合評価する。		
● 参考文献	講義の中で必要に応じ紹介する。		

● 授業スケジュール

回	項目	内容	担当教員
1・2	職業性肺疾患の歴史	職業性肺疾患の変遷	和泉
3・4	職業性肺疾患の基礎1	じん肺や肺腫瘍の特徴	和泉
5・6	職業性肺疾患の基礎2	職業起因のアレルギー疾患の特徴	和泉
7・8	職業性肺疾患の基礎3	職業起因の炎症性疾患の特徴	和泉
9・10	職業性肺疾患の病態生理 1	職業起因の炎症性疾患の病態生理	和泉
11・12	職業性肺疾患の病態生理 2	職業起因のアレルギー疾患の病態生理	和泉
13・14	職業性肺疾患の病態生理 3	職業起因の炎症・線維化の病態生理	和泉
15・16	胸部レントゲン写真の読影 の基礎	胸部レントゲン写真の読影方法	和泉
17・18	じん肺のレントゲン写真読 影1	じん肺のレントゲン写真の実践読影1	和泉
19・20	じん肺のレントゲン写真読 影2	じん肺のレントゲン写真の実践読影2	和泉
21・22	胸部CTの読影の基礎	胸部CT写真の読影方法	和泉
23・24	じん肺における胸部CTの 読影	じん肺の胸部CT写真の実践読影	和泉
25・26	分子生物学的アプローチ の基礎	分子生物学的アプローチの基礎的概念とそ の手法	和泉
27・28	職業性肺疾患の診断	職業性肺疾患の診断方法と診断	和泉
29・30	職業性疾患の労働衛生管 理	職業性疾患の労働衛生管理の手法	和泉

科目名		呼吸病態学演習	
科目責任者	和泉 弘人	呼吸病態学	准教授
担当者	和泉 弘人	(呼吸病態学)	准教授)
開講時期:	2年次	単位数:	4 単位
		時間数:	90分× 30 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>職業性呼吸器疾患の病態モデルやスクリーニングモデル等の検討を通して、解明するためのアプローチを学び、さらにその意義を理解し、職業性肺疾患における病態を解明する手法を演習を通して理解する。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 職業性肺疾患の特徴を論じることができる。 2) 分子生物学的アプローチの手法を論じることができる。 3) 分子生物学的アプローチの手法の意義を論じることができる。 4) 分子生物学的アプローチを解析することができる。 5) 職業性肺疾患における分子生物学的アプローチの意義を論じることができる。 6) 職業性肺疾患において分子生物学的アプローチを応用することができる。 7) 職業性肺疾患の生理学的基礎理論の応用ができる。 8) 職業性肺疾患において分子生物学的アプローチ解析を応用することができる。 9) 各病態モデルにおいて分子生物学的アプローチ解析を応用することができる。 			
● 評価方法	検討会での発表(40%)、レポート(30%)、討論(30%)等で総合評価する。		
● 参考文献	演習の中で必要に応じ紹介する。		

● 授業内容

回	内容	担当教員
1・4・7・10・13・ 16・19・22・25・28	動物モデルやスクリーニングモデル等を介して研究アプローチの手法やその解析方法の基礎知識の習得を図る。	和泉
2・5・8・11・14・ 17・20・23・26・29	職業性肺疾患の病態、分子生物学的アプローチや画像解析に関わる論文をとおして、基礎知識の習得を図る。	和泉
3・6・9・12・15・ 18・21・24・27・30	研究アプローチの手法やその解析方法の指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な演習を行う。	和泉

科目名		呼吸病態学実習	
科目責任者	和泉 弘人	呼吸病態学	准教授
担当者	和泉 弘人	(呼吸病態学)	准教授)
開講時期:	2年次	単位数:	4 単位
		時間数:	90分× 60 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>職業性呼吸器疾患の病態モデル等から病態を解明するための分子生物学的アプローチを実施し、実際の病態との関連を実習を通して検証する。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 職業性肺疾患の特徴を系統的に考察できる。 2) 分子生物学的アプローチの手法を系統的に考察できる。 3) 分子生物学的アプローチの手法の意義を系統的に考察できる。 4) 分子生物学的アプローチの解析を系統的に考察できる。 5) 職業性肺疾患における分子生物学的アプローチの意義を考察できる。 6) 職業性肺疾患において分子生物学的アプローチの応用を系統的に考察できる。 7) 職業性肺疾患の生理学的基礎理論の応用を系統的に考察できる。 8) 職業性肺疾患において分子生物学的アプローチ解析の応用を系統的に考察できる。 9) 各病態モデルにおいて分子生物学的アプローチ解析の応用を系統的に考察できる。 			
● 評価方法	検討会での発表(40%)、レポート(30%)、討論(30%)等で総合評価する。		
● 参考文献	実習の中で必要に応じ紹介する。		

● 授業内容

内容	担当教員
動物モデルやスクリーニングモデル等を介して研究アプローチの手法やその解析方法のデザインの構築を習得する。	和泉
カンファレンス、抄読会等を介して、研究アプローチの手法やその解析方法のデザインの構築の正当性や妥当性を検討する能力を習得する。	和泉
カンファレンス、抄読会等を介して、プレゼンテーションやコミュニケーション能力の充実化を図る。	和泉
研究テーマの指導を行うとともに、テーマに基づいたアプローチの手法やその解析方法を自ら提案させる。	和泉
研究アプローチの手法やその解析方法の指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な実習を行う。	和泉

科目名		呼吸病態学論文指導	
科目責任者	和泉 弘人	呼吸病態学	准教授
担当者	和泉 弘人	(呼吸病態学)	准教授
開講時期:	2年次	単位数:	6 単位
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>職業性呼吸器疾患の病態モデルやスクリーニングモデル等の分子生物学的アプローチを介した病態解析を集積し、論文または報告書を作成して総合的に理解する。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 職業性肺疾患のテーマをみいだすことができる。 2) 分子生物学的アプローチの手法をみいだすことができる。 3) 分子生物学的アプローチの手法の意義をみいだすことができる。 4) 自分のテーマにおいて職業性肺疾患の意義をみいだすことができる。 5) 自分のテーマにおける分子生物学的手法の意義をみいだすことができる。 6) 自分のテーマにおける分子生物学的手法を用いた解析ができる。 7) 職業性肺疾患において分子生物学的アプローチの応用を論述できる。 8) 職業性肺疾患において分子生物学的アプローチ解析の応用を論述できる。 9) 自分のテーマにおける職業性肺疾患の分子生物学的手法の解析の応用を論述できる。 10) 国内外の職業性肺疾患における分子生物学アプローチの意義を論述できる。 			
● 評価方法	学会・討論会における発表 (30%)、討論 (20%)、報告書または論文 (50%) で総合評価する。		
● 参考文献	指導の中で必要に応じ紹介する。		

● 授業内容

内容	担当教員
研究テーマにおいて得られた結果の解釈の仕方について、科学的論理思考ができるように指導する。	和泉
カンファレンス、抄読会等を介して、プレゼンテーションやコミュニケーション能力の更なる充実化を図るとともに、自身の研究テーマとの整合性等を検証させ、報告書や論文における考察する能力を養う。	和泉
研究テーマにおいて得られた結果のまとめ方についての実践的な報告書又は論文指導を行う。	和泉